

調査研究彙報

護国寺本諸寺縁起集の研究 美術工芸・建築・歴史・考古の各部門の協力によって、その逐語的かつ総合的な研究をしようとするものである。1975年度は「招提寺建立縁起」より「勝尾寺縁起」の半ばまでの検討を了えた。

美術工芸研究室

薬師寺金堂銅造薬師三尊像調査 薬師三尊像台座模造に先立って現状調査を文化庁の依頼で行った。調査は本体及び台座で、表面の情況、鑄造技法などで多くの新知見をえた。表面では懸裳の左寄りに3ヶ所にわずかに鍍金が認められ、他の金色の部分はいずれも後世の金箔であること。像表面の光沢は毎年12月に行われるお身ぬぐいの際に付着した異物(恐らく澱粉質)のためであることなどである。鑄造技法では、本体の頭頂(肉髻部)に鑄継があり、恐らく鑄造の際の鉄心を通した部分、或は主要な湯口の真と考えられ、また頸部から胸にかけての部分が大幅に鑄継がれていることも確認された。

仏教説話画の研究 絵因果経・法華経曼荼羅等を中心に資料を収集し、わが国における仏教説話画の変遷について研究を進めた。

奈良県及び周辺の文化財調査 奈良県円成寺、滋賀県松尾寺等の彫刻の調査、京都府南山城地区の文化財調査等をおこなった。

歴史研究室

東大寺文書調査 文化庁よりの委嘱によるもので、1974年度からの継続調査である。未成巻文書第1部(寺領)第11(標庄)より第24—720(雑庄)までの調査を行った。また写真撮影については第1部第1—163より第11—41までを完了した。また寺外流出の東大寺文書についても資料収集をした。

西大寺典籍古文書調査 従来よりの調査の継続で、8函の調査を完了した。また騎獅子文殊像(重文)納入の大般若経等の写真撮影を行った。6月、12月

仁和寺典籍古文書調査 従来よりの調査の継続で、笈収納古文書ならびに塔中藏階下収納の典籍類(主として版本)を調査した。3月

醍醐寺典籍古文書調査 第417函収納の紙背文書類・江談抄(重文)等の調査ならびに写真撮影を行った。8月

中宮寺典籍古文書調査 中宮寺所蔵の全典籍・古文書を調査して目録を作成し、また主要なもの写真撮影した。2月、3月

その他の調査(依頼によるもの)

石山寺 石山寺一切経・聖教調査 石山寺よりの依頼によるもの(調査責任者:嵯峨美術短期大学学長 佐和隆研氏)。8月、12月

興福寺 春日版板木調査 文化庁美術工芸課の調査に協力。4月、10月

東寺 観智院聖教調査 京都府立総合資料館が実施の調査に協力（文化庁補助金による古文書等緊急調査の一つ）。9～10月, 3月

大覚寺 大覚寺文化財総合調査 文部省科学研究費総合研究「大覚寺文化財の総合調査」（研究代表者：佐和隆研氏）による。8月, 12月, 3月

高山寺 典籍古文書調査 畠山文化財団研究費による共同研究（代表者：東京大学 築島 裕氏）。7月

建造物研究室

奈良井宿の調査 伝統的建造物群保存対策研究の一環として、前年度にひきつづき1975年度も木曾奈良井宿の町並とその歴史的環境の調査を実施した。成果は学報にまとめて刊行した。

今井町並調査 1968年度から1971年度にかけて今井町の民家調査を行ったが、報告書をまとめるにあたり、各家々および道路の関係を調べ、町全体の平面図を作成する資料をつかった。
(細見・福田)

徳島県美馬郡一字村民家調査 剣山地の北斜面に位置する一字村には棟札をもつ古い民家の存在が村史等で知らされていた。享保5年から明治20年にいたる間に建築された13件を11月に調査した。間取は小規模な家は横二間取、中規模な家は中ねま三間取で、時代による間取の変化は少ないが、構造形式は変化が著しく、18世紀後半以後、柱の上半部をこきおとして横架材を貫通する構法が発達する。代表的民家として、葛籠家（享保5年）、檉地家（安永3年）、下木家（安永10年）などがある。
(宮沢)

秋山郷民家移設調査 国立民族学博物館の展示のために、長野県秋山郷から中門造の民家を移設することになり、これに協力して、4月～6月に解体と復原調査を実施した。この民家は19世紀初頭の建築になるもので、改造が少なく保存状況は良好であった。
(宮沢・藤村)

天理市の建築調査 社寺27件、民家90件の調査を行った。主な社寺建築としてつぎのようなものがある。

1 小規模な寺社建築

件名	所在	規模	時代	備考
杵築神社境内薬師堂	南六条町	方一間 宝形造	室町初期	
三十八所神社本殿	合場町	一間社春日造	室町中期	
春日神社本殿	岩屋町	一間社春日造	桃山	

2 規模の大きい浄土系本堂

念仏寺本堂	中山町	五間堂、入母屋造、瓦葺	享保頃	
迎乗寺本堂	丹波市町	五間堂、入母屋造、瓦葺	寛延2年	

3 山間部の簡素な堂

下之坊本堂	福住町	三間堂、寄棟造、草葺	室町	
-------	-----	------------	----	--

つぎに民家では、四間取でなく、前座敷三間取が農家の間取としてむしろ一般的であったことが知られた。主な民家として、森嶋家(嘉峰町)四間取 宝永3年、久保家(下山田)五間取寛政7年頃、上田家(九条町)前座敷三間取 19世紀、などがある。また、幕末から明治初年になわたる大きい民家が多数残り、大和棟及び瓦葺農家の発展状況が明らかになった。

古い姿をとどめる町並集落として、上街道にそう櫓本・丹波市・柳本、そのほか石上・田部・二階堂菅田町などがある。
(岡田・上野・中村)

春日大社社殿の実測 春日大社の式年造替にあたり、本殿など社殿の修理が行われた。神社建築の代表的な遺構であるので、この機会に奈良県教育委員会に協力して実測を行った。

(岡田・宮本・上野・中村)

玉置神社の調査 奈良県吉野郡十津川村の玉置神社は、玉置山の山頂にある修験道関係の神社である。本殿は江戸時代後期の三間社入母屋造で千鳥破風及び唐破風を付け、内陣は広間で3棟の神殿を置く。社務所は吉野建の上に段をもつ書院造で江戸時代後期の建立であるが、何れも修験関係の遺構として重要なものである。
(岡田)

文化財建造物修理用資材需給の調査 近年、文化財建造物修理に使用する内地産松、松皮、茅、などの資材の供給が次第に悪化しているので、文化庁では1975・76年度の予定で、今後の対策をたてるために実態調査を行っている。1975年度は松・松皮に関して調査を行い、建造物研究室では、高野及び吉野産松についての調査に協力した。
(岡田)

桂離宮建築調査 桂離宮御殿の解体修理に伴う事前調査を昨年度に引続き宮内庁に協力して行った。壁土の産地及びその施工職人の現況、御殿使用木材の材種及び産地等、修復に必要な技術面の検討を主として調査した。
(鈴木)

平城宮跡発掘調査部

内裏検討会 調査部では、1974年度から宮内の中心遺構である2つの推定内裏の性格を解明すべく、部員全員および飛鳥藤原宮跡発掘調査部等からの参加のもとに検討集会を行っている。1975年度に行った集会はつぎの2回である。7月 報告「第1次内裏の変遷」黒崎直、「第1次内裏地域出土の木簡」野野久。1月 報告「第2次内裏地域出土の瓦」森郁夫、「第2次内裏地域出土の土器」吉田恵二。

金属製品の保存処理と修復 金属器の保存と修復について、今年度はつぎのような調査研究を行った。香川県久木古墳出土銅鏡一式、新潟県宮口古墳出土鉄刀等5点、石川県辰ノ口茶臼山古墳出土鉄器一括、福井県若狭国分寺出土金銅水煙一括、鳥取県伯耆国々庁出土鋤先5点。

石木遺跡出土木製品の調査 佐賀県石木遺跡から出土した古墳時代の木製品について実測した。農具・工具・鞍などからなる豊富な内容をもつ。3月
(黒崎・菅原・毛利光)

竹ノ下遺跡出土木製品の調査 愛媛県松山市竹ノ下遺跡出土の木器について、実測調査を行っ

た。農具・工具・刃物など豊富な内容をもつ5世紀末の遺物であり、とくに直弧文風の文様を刻した獸形柄頭は貴重な資料である(挿図)。3月 (黒崎・山本)

八代神社所蔵神宝の調査 昨年度にひきつづき、三重県鳥羽市神島に所在する八代神社の神宝について、2回目の調査を行った。今回は古墳時代から平安時代にいたる銅鏡その他金属具、土器、施釉陶器などの実測と写真撮影を実施。10月 (佐藤・金子・吉田・西・井上)

山陰地方出土瓦の調査 鳥取県倉吉市立博物館で開催された「山陰の古瓦展」を契機に、山陰地方出土瓦の調査を行った。畿内寺院の影響をうけた瓦当文様や、山陰地方独特の文様があり、山陰地方における造瓦の様相を知りえた。7月 (森・岡本・須藤・山崎)

美濃国分寺跡環境整備 大垣市の依頼により、発掘調査で明らかになった塔・中門基壇造成工事の基本計画および指導監督を行った。1975年4月～76年3月 (牛川・田中)

萩反射炉の写真測量 今年度は、反射炉修復方法を検討するための予備調査である。反射炉の傾斜・たつみ・沈下・ふくらみ・移動の経年変化をみるためポールを設置し、写真測定を行い、その指導監督をした。1975年4月～76年3月 (牛川)

埋蔵文化財センター

出雲国分尼寺の発掘 国分尼寺の範囲を確認するための第3次調査。主要な堂塔らしい遺構を検出するが、保存がわるく全体をしりえなかった。ただ、尼寺の範囲についてはおよその見当をつける資料をえた。鳥根県教育委員会。8月 (稲田)

美濃国分寺の発掘 整備事業に先だち、塔・回廊を発掘。塔基壇は一边19.2m、高さ1.5m、初重平面は3.6m等間の3間4方であった。南面西回廊の一部を掘り、基壇幅5.2mの両側に溝を設けることが判明した。大垣市教育委員会。7月～8月 (八賀・木下・甲斐・千田・北野・井上)

伯耆国庁の発掘 国庁推定地の内郭とみられる東西110m、南北130mの長方形区画の西半部を発掘し、正庁など官衙遺構を検出した。時期は奈良時代から平安時代におよぶ。倉吉市教育委員会。9月～11月 (宮沢・佐藤・岩本圭・須藤)

肥前国府跡推定地の発掘 従来肥前国府については、佐賀県佐賀郡大和町を中心に数カ所の推定地があり、その確認のため調査。今回の調査地点では積極的な徴証がえられず、継続して調査を行うことになった。佐賀県教育委員会。10月～1月 (田中琢・松沢・工楽・西村)

志谷奥遺跡の発掘 1974年に鳥根県鹿島町志谷奥で、一括出土した銅鐸2個・銅剣7本の埋納状況を調べるための発掘調査を実施した。埋納穴の形状を確かめ、残っていた銅鐸・銅剣の破片を採集した。遺構は急斜面にあり崩壊の危険があるので、埋納穴を樹根加工してとりあげた。鹿島町教育委員会。12月 (佐原・沢田・秋山)

木戸窯跡群の磁気調査 多賀城創建期の瓦窯群。遺跡保存のためプロトン磁力計による遺構確認を行い、磁気異常の分布から数基の窯跡を新に確認した。宮城県教育委員会。5月 (岩本圭)

宮の前庭寺の発掘 国指定の史跡について環境整備を行うため、塔と金堂の位置と規模を確認

する調査を行う。塔跡における奈良時代の埴積基壇の保存は、とりわけ良好であった。福山市教育委員会。1月 (西村)

伊丹廃寺保存管理計画策定委員会 国指定史跡伊丹廃寺について、保存活用のための保存管理計画策定のため、指導を依頼されたもの。伊丹市教育委員会。1月 (田中琢)

斎王宮跡発掘調査検討会 斎王宮の範囲を確認する発掘調査が1973年度から実施され、今年度も継続している。遺跡は奈良時代から鎌倉時代にかけて存続し、その遺構遺物についての性格を検討した。三重県教育委員会。5月 (横山)

開陽丸遺跡 戊辰の役の際、座礁沈没した徳川幕府の軍艦開陽丸の沈没地点における水中調査。本年度は5ヶ年計画の第1年度で、残存状況等を確認するための予備的な調査を実施した。北海道江差町教育委員会。6月 (田中琢)

大山廃寺発掘打合せ会 史跡指定地が塔跡に限られているため、他の堂宇跡を確認し、追加指定するための調査。塔跡周辺の調査と地形図の作成を行い、今後継続して発掘する予定。小牧市教育委員会。8月 (田中琢)

舟橋遺跡出土遺物の調査 大阪府舟橋遺跡出土の弥生土器を中心とする土器群について実測、写真撮影などを行う。考古学関係の所員が年間を通じて実施。

その他 以上のような調査に対する発掘および助言のほか、つぎのような遺跡についても指導などの協力を行った。平林遺跡(鳥取県, 4月), 十三宝塚遺跡(群馬県, 5月~8月), 伊場遺跡(静岡県, 10月~12月), 鳥浜貝塚(福井県, 10月), 御経塚遺跡(石川県, 11月), 草戸千軒町遺跡(広島県, 12月), 長越遺跡(兵庫県, 12月), 国道9号バイパスに関する埋蔵文化財調査打合せ(京都府, 1月), 馬形植輪などの復原に関する助言(鳥根県, 1月), 岩橋千塚古墳群整備(和歌山県, 2月), 橋原廃寺(岡山県, 2月)